

第2回横浜市緑区福祉保健活動拠点指定管理者選定委員会 議事録

開催日時	平成27年3月19日(木) 午前10時から午前11時45分					
開催場所	緑区役所3階 特別会議室					
出席者 (敬称略・五十音順)	市木智子、井上敏正(委員長職務代理者)、小林俊子(委員長)、平山孝子 松浦正義					
欠席者(敬称略)	なし					
開催形態	一部非公開(傍聴者無し)					
議 題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 会議の公開について</li> <li>2 財務評価について</li> <li>3 面接審査</li> <li>4 審議</li> </ol>					
決定事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 本日の会議の一部非公開を決定 【非公開部分】 「審議」</li> <li>2 審査の結果、委員会としての指定管理者の候補者は、次のとおりとなった。</li> </ol> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">指定管理者の候補者</td> <td>評価得点/満点(最低基準点)</td> </tr> <tr> <td>社会福祉法人 横浜市緑区社会福祉協議会</td> <td>834点/1,000点 (600点)</td> </tr> </table>		指定管理者の候補者	評価得点/満点(最低基準点)	社会福祉法人 横浜市緑区社会福祉協議会	834点/1,000点 (600点)
指定管理者の候補者	評価得点/満点(最低基準点)					
社会福祉法人 横浜市緑区社会福祉協議会	834点/1,000点 (600点)					
議 事	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会 委員出席数 5人(全員出席)</li> <li>2 議題  <u>議題1 会議の公開について</u>                      (委員長)「審議」については、会議を公開することで公正かつ円滑な議事運営が阻害されると考えられるため、前回決定したとおり、「審議」以降を非公開とすることが適切と考えますが、いかがでしょうか。                      (各委員) 異議なし。                       (承認事項)「審議」を非公開とする。                       (事務局より) 審査方法及び最低基準点を確認   <u>議題2 財務評価について</u>                      資料の内容を確認   <u>議題3 面接審査</u>                      申請法人：社会福祉法人 横浜市緑区社会福祉協議会                      (以下、「区社協」という。)                      (1) プレゼンテーション概要                      法人理念、法人の特徴、施設運営のポイント、区社協ボランティアセンターとの連携、現在までの運営事例、取り組むべき課題、これからの運営計画等について説明。                 </li> </ol>					

(2) 主な質疑応答

(委員長) 幅広い人材を増やすために講座を実施しているとのことだが、実際にどのような講座を実施しているのか。

(区社協) 平成 25 年度は、「障がい児余暇支援ボランティア研修」「やってみよう手話！ 1・2・3」「ボランティア交流会」「こころの病をかかえる人がわかる講座」を実施した。平成 26 年度は、それに加えて「ボランティア入門講座」「傾聴講座」を実施している。今後は、講座回数を増やす中で、趣味や生活に役立つ知識などの講座も実施し、その講座を入口として人材を増やしていきたい。

(委員長) 担い手の育成が必要ななか、区社協に直接関係のない団体との連携は、どうしているのか。

(区社協) 区社協に登録いただいていない団体や、地域ケアプラザ、市民活動支援センター「みどり一む」などとも連携しながら、つながっていききたい。あわせて、地域の方が身近なところで活動できるよう、今後は出張型講座も実施したい。

(委員) 地域ニーズは、どのように把握しているのか。

(区社協) 区社協の各分科会活動や、「みどりのわ・ささえ愛プラン」の分野別・団体別グループインタビュー、区社協の各事業などを通じて把握している。最も大きなものとしては、「みどりのわ・ささえ愛プラン」地区別計画を通して、各地区と直接コミュニケーションを取らせていただいている。また、地域ケアプラザとも連携し、今後とも把握に努めたい。

(委員) 福祉の現状として、何か事が起こってから対応している。高齢化を含め、予測できる事態には、地域とともに事が起こる前に考え、対応してもらいたい。

(委員) 職員の配置は、常勤 1 非常勤 1 とあるがこれだけなのか。

ニーズが増え、出張型講座も行くと、この人数で対応できるのか。

(区社協) 区社協の他の職員も協力しながら対応していきたい。ボランティアセンターとも連携しながら、また、相談等の多い時間には人を多く配置する等の工夫をしながら、実施していきたい。

(委員) 障がい児・者に関する事など、地域の課題解決に向けて、具体的に考えていることがあれば教えて欲しい。

(区社協) 具体的な事業ではないのだが、障がいに関する支援者のスキルアップのための研修や、「あんしんセンター」の活動を通じた、同じような事例が 2 度と起こらないための予防的な支援などを考えている。

(委員長) ボランティアの高齢化・固定化は非常に大きな課題。拠点での事業は、単なる「場」をどうするかだけではなく、ささえあいの地域づくりに向け、「担い手」をどうやって開拓していくかが大切。地域に住んでいる人に「気づいて」もらい、「活動して」もらえるように取り組む必要がある。指定管理者として、そのような認識は持っているか。

(区社協) 認識している。

(委員) 地域でも様々な取組をしているが、これまで活動に参加したことがない方に「気づいて」もらうのは本当に難しい。福祉について、

地域ケアプラザや福祉保健活動拠点では知識も経験もあると思うが、自治会レベルの活動にも入り込んで、一緒になってやっていこうという姿勢はあるか。  
(区社協) ぜひ、一緒にやらせていただきたい。

**議題4 審議** (指定管理者の候補者の決定) (非公開)

審査の結果、横浜市緑区福祉保健活動拠点の指定管理者の候補者として、「社会福祉法人 横浜市緑区社会福祉協議会」を緑区長へ報告することとした。

[評価得点/満点(最低制限基準)]

指定管理者の候補者	評価得点/満点(最低基準点)
社会福祉法人 横浜市緑区社会福祉協議会	834点/1,000点(600点)

[審査講評]

ボランティアが高齢化・固定化するなか、ささえあいの地域づくりに向け、福祉保健活動拠点指定管理者として、次のような役割を積極的に担うことを期待する。

- ・地域でのボランティア育成のため、積極的に取り組むこと。
- ・地域に住んでいる人に「気づいて」もらい、活動につながるよう、自治会をはじめ地域とともに福祉活動への理解促進を図ること。
- ・地域ニーズに関しては、事態が起こってから対応だけではなく、予測される課題に対しても積極的に取り組むこと。

3 閉会

資料

- 次 第 第2回横浜市緑区福祉保健活動拠点指定管理者選定委員会次第
- 資料1 横浜市緑区福祉保健活動拠点指定管理者選定委員会委員名簿
- 資料2 横浜市緑区福祉保健活動拠点指定管理者選定委員会運営要綱
- 資料3 横浜市緑区福祉保健活動拠点の指定管理者の候補者の選定等に関する要綱
- 資料4 平成26年度第1回選定委員会議事録
- 資料5 第2回委員会スケジュール
- 資料6 最低基準点の設定について
- 資料7 財務分析結果報告書
- 資料8 第2回選定委員会選定評価シート